

## エグゼクティブサマリ

### 第 I 部 イメージスキャナに関する調査

#### (1) 2018 年の出荷実績

2018 年のイメージスキャナの出荷実績は以下のとおりであった。

2018 年 イメージスキャナ市場	台数 (前年比)	金額 (前年比)
国内出荷と輸出を合わせた総出荷	321 万台 (1%増)	757 億円 (2%増)
フラットベッドスキャナ	122 万台 (±0%)	86 億円 (±0%)
ドキュメントスキャナ	197 万台 (3%増)	669 億円 (3%増)

2018 年のイメージスキャナの出荷実績は、台数では約 321 万台 (前年比 1%増)、金額では約 757 億円 (前年比 2%増) と、台数・金額ともに増加という結果となった。

フラットベッドスキャナ (A3 以下/50,000 円以下のフラットベッド) は、台数・金額ともに前年並にとどまった。主に業務で紙文書の電子化や OCR などに使用されるドキュメントスキャナは、輸出が好調で前年比で台数・金額ともに 3%増となった。

#### (2) 2021 年までの出荷見通し

2021 年 イメージスキャナ市場	台数 (2018 年比)	金額 (2018 年比)
国内出荷と輸出を合わせた総出荷	326 万台 (2%増)	812 億円 (7%増)
フラットベッドスキャナ	113 万台 (7%減)	77 億円 (10%減)
ドキュメントスキャナ	212 万台 (7%増)	733 億円 (9%増)

2021 年のイメージスキャナの見通しは、台数では約 326 万台 (2018 年比 2%増)、金額では約 812 億円 (同 7%増) と見通した。

このうちドキュメントスキャナは、成長は鈍化するものの引き続き成長が見込まれ 2018 年と比べて台数で 7%増、金額で 9%増となる見通しである。

一方、フラットベッドスキャナは、2018 年と比べて台数で 7%減、金額でも 10%減との見通しとなった。

## Ⅱ部 OCR 関連装置に関する調査

### 1. 2018 年の市場規模

2018 年（2018 年 1 月から 12 月）の OCR 市場は、金額ベースで約 84 億円となっており、2017 年比で約 4%増という結果になった。台数（本数）ベースでは、伝票処理用 OCR「デバイスタイプ」が約 6 千台（本）となっており 2017 年比で約 4%増となった。文書用 OCR「ソフトウェアタイプ」については、従来の新聞、雑誌および論文等の技術資料に記載される活字文書の読み取りから名刺、免許証や領収書、レシートなど多様な文書の読み取りに活用範囲が広がっており、また OCR メーカーが減少していることから、伝票処理用 OCR「ソフトウェアタイプ」と統合し金額集計のみを実施することとした。よって台数（本数）は伝票処理用 OCR「デバイスタイプ」のみの集計結果となっている。2018 年度台数（本数）と金額が増加した主な要因としては、AI や RPA などと組み合わせて OCR システム導入が活発化しているものと推測する。伝票処理用・文書用 OCR「ソフトウェアタイプ」が、金額ベースで約 8%減の約 15 億円となっており、製品単価が低下しサブスクリプションや課金サービスなどの料金体系の変更が進んできていると推測する。ソリューションサービスは金額ベースで、約 18 億円となった。

### 2. 2021 年までの見通し

2021 年の OCR 市場は、金額ベースで約 83 億円（2018 年比 約 2%減）と見通した。タイプ別では、伝票処理用 OCR「デバイスタイプ」は台数ベースで約 2 万台、金額ベースで約 55 億円、伝票処理用・文書用 OCR「ソフトウェアタイプ」は金額ベースで約 12 億円と見通した。

伝票処理用 OCR「デバイスタイプ」は、2018 年以降は、オリンピック後に設備投資や企業の装置リプレース需要が減少していくと見通した。

伝票処理用・文書用 OCR「ソフトウェアタイプ」は 2018 年以降、より一層の低価格化、サブスクリプションや課金サービスの浸透など販売体系が変更すると予想され減少と見通した。

ソリューションサービスは、2018 年以降は約 18 億円の水準で推移するものと見通した。

以上